

2025 年 12 月 23 日

報道各位

ニューホライズン キャピタル株式会社

株式会社タカフジによる PT. Prima Khatulistiwa Sinergi への投資実行

ニューホライズン キャピタル株式会社（本社 東京都港区西新橋、取締役会長 安東 泰志、以下「NHC」）が管理運営する、ニューホライズン 4 号投資事業有限責任組合（以下総称して「弊社」）の投資先である株式会社タカフジ（本社 大分県大分市、代表取締役社長 佐藤 隆彦、以下「タカフジ」）は本日付けで、PT. Prima Khatulistiwa Sinergi（Riau, Indonesia、CEO Alexander、以下「Prima」）への投資を実行いたしましたのでお知らせします。

タカフジは創業以来、地元である大分県を中心に大型プラントの機械据付、鋼製加工品・配管製作及び各種総合メンテナンス工事を手掛けてきました。近年は祖業のプラント工事から派生する形で、バイオマス発電プラントの建設・運営、バイオマス燃料（木質チップ・PKS（パーム椰子殻））の供給事業、下水汚泥のバイオマス燃料化事業、地熱を利用した農場運営事業等を展開し、脱炭素や循環型社会の実現に積極的に取り組んでおります。

Prima は、PKS 及び木質チップを原料とするバイオマス燃料の加工・販売を主軸に、インドネシアにて再生可能エネルギー関連事業を展開する企業です。バイオマス燃料の国内外への安定供給を通じた廃棄物の削減と資源循環の推進により、インドネシアにおける脱炭素・クリーンエネルギーの促進に貢献しており、2025 年にはインドネシアの国営電力会社である PLN から最優秀サプライヤーにも選出されております。

本件投資によりタカフジと Prima がそれぞれ培ってきた強みを組み合わせることが可能となり、両社における再生可能エネルギー関連事業がさらに加速されることが見込まれます。このような取組みは、「持続可能な開発目標（SDGs）」の推進に大きく貢献することが期待され、弊社の責任投資原則（ESG ポリシー）や「意義ある投資で新たな地平へ」という弊社の Purpose にも合致するものと考えております。

弊社は本件投資を通じた両社のシナジー実現を支援することで、両社の企業価値向上に尽力する所存です。

ニューホライズンキャピタル株式会社について

2002年2月に創業した前身のフェニックス・キャピタル時代から、2006年10月の会社分割を経て、通算23年超の実績（独立系ファンドとしては最大規模の累積運用資産総額2,700億円超）を誇る。現在は、NHCとして6本目、創業から10本目のファンドを運営中。2002年以来、すべてのファンドの創設時にキーマン（主運用責任者）をつとめてきた安東泰志をはじめとするNHCのチームメンバーは、フェニックス・キャピタルにおいて、三菱自動車、ティアック、東急建設、不動建設、世紀東急工業、市田、ツムラ等、また、ニューホライズン1号から4号ファンドにおいても多数の投資を実行し、ハウステック、シバウラ防災製作所、昭和コーポレーション、NITTO/平世美装等、開示可能なエクイティ投資先だけで約50社、全体では100社超の日本随一の投資実績を有する。

この件に関する問い合わせ先（弊社広報担当）：

インターナショナル・ファイナンシャル・コンサルティング株式会社

竹江、大谷 連絡先：03-5532-8921